

厚生労働省告示第92号(平成18年3月6日)

K920-2 輸血管理料

- 1 輸血管理料Ⅰ 200点
- 2 輸血管理料Ⅱ 70点

注 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方社会保険事務局長に届け出た保険医療機関において、輸血を行った場合に、月1回を限度として、当該基準に係る区分に従い、それぞれ所定点数を算定する。

厚生労働省告示第92号(平成18年3月6日)

三の二 輸血管理料の施設基準

(1) 輸血管理料Ⅰの施設基準

- イ 臨床検査技師が常時1名以上配置されていること。
  - ロ 輸血管理を行うにつき十分な体制が整備されていること。
  - ハ 輸血製剤が適正に使用されていること。
- (2) 輸血管理料Ⅱの施設基準
- イ 輸血管理を行うにつき十分な体制が整備されていること。
  - ロ 輸血製剤が適正に使用されていること。

秘

## 血液製剤使用実態調査

--

(上記印字内容に誤りがある場合は、訂正をお願いいたします。)

この調査は、統計報告調整法に基づき、国が実施する「承認統計調査」であり、統計目的以外では使用できない等、個人情報保護の面で厳密な取扱いを行うことが保障されております。また、平成17年4月施行の「個人情報の保護に関する法律」上も、「承認統計調査」への情報提供は問題ないとされておりますので、漏れの無いよう、正しく記入してください。

調査票は下記の3種類となります。

- 1 血液製剤適正使用実態調査票
- 2 血液製剤平均的使用量調査票
- 3 病態別・術式別血液製剤使用量調査票

なお、3の調査票については、許可病床数200床以上の医療機関が対象となります。

本調査票に御記入いただいた内容について、不明な点などがありました場合、問い合わせをさせていただくことがあり得ます。恐れ入りますが、その際の窓口になっていただける方のお名前と所属を御記入下さい。

お名前		所属		Tel
				(内線)
				F a x :
				E-mail :

総務省承認 No. 26395

承認期限 平成18年3月31日まで

## 血液製剤使用実態調査

## 【血液製剤適正使用実態調査票】

## I 貴医療機関の概要についてお尋ねします。

問1. 平成16年度末の使用病床数（一般病床のみ）はいくつですか。

( ) 床

問2. 平成16年度末の標榜診療科は何ですか。(以下で該当するもの全てに○を付けて下さい。)

- |               |             |                      |             |
|---------------|-------------|----------------------|-------------|
| 1 内科          | 2 心療内科      | 3 精神科                | 4 神経科（神経内科） |
| 5 呼吸器科        | 6 消化器科（胃腸科） | 7 循環器科               | 8 アレルギー科    |
| 9 リウマチ科       | 10 小児科      | 11 外科                | 12 整形外科     |
| 13 形成外科       | 14 美容外科     | 15 脳神経外科             | 16 呼吸器外科    |
| 17 心臓血管外科     | 18 小児外科     | 19 皮膚泌尿器科（皮膚科又は泌尿器科） |             |
| 20 性病科        | 21 こう門科     | 22 産婦人科（産科又は婦人科）     |             |
| 23 眼科         | 24 耳鼻いんこう科  | 25 気管食道科             |             |
| 26 リハビリテーション科 | 27 放射線科     | 28 麻酔科               |             |

問3. 血液製剤のうち、参考2及び参考3の表に掲げる製剤の使用（平成16年4月以降現在まで）の有無について、該当するものに○を付けて下さい。

1 あり  
↓

2 なし →有り難うございました。ここで終了です。

【以下は記入せず、調査票を必ず御返送願います】

【引き続き4の質問にご回答下さい。】

問4. 貴医療機関で使用した血液製剤について、該当する各製剤毎の年間使用量（平成16年度）を下記に御記入下さい。(対象製剤、使用量の換算等については参考1～参考3をご覧ください。)

- |                          |        |
|--------------------------|--------|
| 1 赤血球濃厚液（MAP）            | ( ) 単位 |
| 2 新鮮凍結血漿                 | ( ) 単位 |
| 3 血小板濃厚液                 | ( ) 単位 |
| 4 アルブミン製剤（加熱人血漿たん白製剤を含む） | ( ) g  |
| 5 免疫グロブリン製剤              | ( ) g  |



問4. 病院の輸血療法全般及び輸血業務を監督し責任を持つ医師（輸血業務担当や責任者として病院等から任命されている医師。以下「責任医師」という）を任命していますか。

1 はい	2 いいえ
↓ 責任医師についてお伺いします。	
①医師は、 a 専任である b 兼任である	
②医師の所属名を記入して下さい。 ( )	
③医師は、「日本輸血学会認定医」ですか。 a はい b いいえ	

問5. 病院で輸血業務全般を担当する輸血担当検査技師（輸血検査や輸血業務全般の担当者。以下「担当技師」という。）がいますか。

1 はい	2 いいえ
↓ 当該技師についてお伺いします。	
①技師は、 a 専任である b 兼任である	
②技師数は、 a 1人 b 複数 ( )人	
③技師は、「認定輸血検査技師制度」の認定検査技師ですか。（複数の場合は全員についてお伺いします）	
a 全員が認定検査技師である b 一部の者が認定検査技師である	
c 全員が認定検査技師ではない	
④専門性を考慮し、技師の人事異動を最小限にする配慮をしていますか。（技師が複数の場合は全員について） a はい b いいえ	

問6. 「担当技師」による輸血検査は24時間対応できる体制を取っていますか。（検査技師の勤務時間外は医師が輸血検査をする場合は（2） いいえ と回答して下さい。）

1 はい	2 いいえ
------	-------

問7. 「担当技師」、「責任医師」等の活動について、お伺いします。

1 これらの者は、日本輸血学会の輸血認定医又は認定輸血検査技師の資格取得やこれに関連する図書熟読、講習会の参加等、各種指針等\*を用いた勉強会の活用等、輸血医療の適正な実施に係る学習及び研究を励行していますか。

a 「担当技師」及び「責任医師」とともに励行している。
b 「担当技師」のみ励行している。
c 「責任医師」のみ励行している。
d 「担当技師」及び「責任医師」とともに励行していない。

2 医療機関管理者は、これらの者が指摘する輸血医療に関する発言等を尊重するよう、院内のコンセンサスの確保に努めていますか。

a はい b いいえ

3 「担当技師」が、主治医等からの血液発注量が各種指針\*に準拠せず、多かった場合等に、「責任医師」及び「輸血療法委員会等委員長」と協議し、その結果を踏まえ、「責任医師」又は「担当技師」が、主治医に対して使用量が多いことを指摘し、双方、十分な協議のもと理解を得た上で改善を促す体制にありますか。

a はい b いいえ

\*各種指針等は以下を指します

- ・各種指針「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」  
(平成17年9月6日薬食発第096002号 厚生労働省医薬食品局長通知)
- ・「血液製剤の平均的使用量について」(平成16年12月27日薬発第1227001号  
厚生労働省医薬食品局長)

問8. 院内に「輸血療法委員会等」を設置していますか。

1 はい 2 いいえ



委員会について、お伺いします。

①委員長は医療機関管理者又は外科系医師（麻酔科を含む）ですか。

a はい b いいえ

②委員会に、輸血が必要な症例の多い診療科の責任者を参画させていますか。

a はい b いいえ

問9. 「輸血療法委員会等」の開催頻度はどの程度ですか。頻度は平成16年度実績で御回答下さい。

- 1 定期的  
a 毎週 b 毎月 c 年3～4回 d 年1～2回
- 2 不定期

問10. 「輸血療法委員会等」として、以下の項目で実施しているものに全て○を付けて下さい。

- 1 血液製剤（主に、赤血球製剤、新鮮凍結血漿、アルブミン製剤、血小板製剤）の使用状況について、診療科ごとに比較検討している。
- 2 貴施設の管理者の指示のもと、毎月、診療科ごとの発注量、使用量、廃棄量等を各診療科の長に配布し、診療科内に掲示している。
- 3 血液製剤ごとに、月次、年次の使用量の比較・分析を行うとともに、「血液製剤の平均的使用量について」（平成16年12月27日付け薬食発第1227001号各都道府県知事あて厚生労働省医薬食品局長通知）を活用するなどして、他医療機関と比較検討及び評価している。
- 4 各種指針\*の遵守状況について、各科から報告・検討するとともに、当該医療機関での解決が難しい場合、合同輸血療法委員会又は「採血時の欧州滞在歴に関する問診の強化及び血液製剤の適正使用の推進について」（平成17年4月21日付け薬食発第0421003号（社）日本医師会長等あて厚生労働省医薬食品局長通知）における別紙連絡先に照会している。
- 5 輸血実施症例の検討と使用指針に基づいた評価を行っている。
- 6 必要に応じて、保険診療での査定状況も症例毎に検討している。

\*各種指針は以下を指します。

「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」

（平成17年9月6日薬食発第096002号 厚生労働省医薬食品局長通知）

問11. 血液製剤による副作用（輸血感染症を含む）の報告体制について、該当するもの全てに○を付けて下さい。

- 1 病院内、日赤血液センター、厚生労働省のいずれへの報告体制もない。
- 2 病院内の報告体制はある。
- 3 日赤血液センターへの報告体制はある。
- 4 厚生労働省への報告体制はある。

問12. 輸血感染症の疑いのある症例について、過去の輸血例も含めて、血液製剤による健康被害の防止の観点から、日本赤十字社又は厚生労働省へ報告していますか。

- 1 はい
- 2 いいえ
- 3 今までに該当する症例がなかった。

問13. 血液製剤の適正使用に関する、病院としての取組について該当するのはどれですか。

- 1 病院全体での取組はなく、個々の医師にまかされている。
- 2 レセプト減点になるものについてのみ、指導している。
- 3 輸血療法委員会等で検討し、病院全体で取り組んでいる。

問14. 「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」及び「薬事法」に基づく医療関係者の責務について、医療機関管理者にお尋ねします。

- 1 担当医師等の関係者が、特定生物由来製品を使用する際には、原材料に由来する感染のリスク等について、特段の注意を払う必要があることを、当該関係者は十分認識していると思いますか。

a はい      b いいえ

- 2 血液製剤（血漿分画製剤を含む）の有効性及び安全性その他当該製品の適正な使用のために必要な事項について、担当医師等の関係者が、患者又はその家族に対し、適切かつ十分な説明を行い、その理解を得る（インフォームド・コンセント）ように、努めていると思いますか。

a はい      b いいえ

問15. 平成17年の厚生労働省通知「血液製剤の使用指針・輸血療法の実施に関する指針」（以下「指針」）の遵守体制について、該当するものはどれですか。

- 1 「指針」の遵守は、個々の医師に任せており、輸血関連部門への配布はしていない。
- 2 輸血関連部門に「指針」を配布しているが、院内に周知していない。
- 3 院内の医師、看護師に「指針」を配布し周知しているがマニュアルはない。
- 4 「指針」を院内に周知し、院内の輸血療法マニュアルに反映させて実施している。



問16. 「指針」によれば、「(輸血後肝炎について)、早期治療を図るため、医師が感染リスクを考慮し、感染が疑われる場合などには、輸血前後の肝炎ウイルス関連マーカーの検査等を行う必要がある」とされていますが、この指針の条件に該当する患者に対する検査の実施状況について、該当するものはどれですか。

- 1 ほとんど行っていない。
- 2 一部は行っている。
- 3 ほぼ全ての患者に対して行っている。
- 4 該当する症例なし。

問17. 厚生労働省通知「血液製剤の平均的使用量について」(平成16年12月27日付薬食発第1227001号各都道府県知事あて厚生労働省医薬食品局長通知、以下「通知」)について、医療機関管理者にお伺いします。

- 1 「通知」を知っていますか。
  - a はい
  - b いいえ

↓
- 2 「通知」の周知状況、活用方法について、該当するものに○を付けて下さい。
  - a 院内への周知徹底等の特段の対応はせず、個々の医師に任せている。
  - b 輸血関連部門には配布しているが、院内全体への周知徹底はしていない。
  - c 院内全体での周知徹底はしている。
  - d 院内に周知徹底し、輸血療法委員会等で評価・検討するとともに、院内の輸血療法マニュアルに反映させるなど、活用している。

問18. 厚生労働省通知「血液製剤の適正使用推進に係る先進事例等調査結果及び具体的強化方策の提示等について」(平成17年6月6日付各都道府県衛生主管部(局)長あて厚生労働省医薬食品局血液対策課長通知)を知っていますか。(医療機関管理者にお伺いします。)

- 1 はい
- 2 いいえ

総務省承認 No. 26396  
承認期限 平成18年 3月31日まで

血液製剤使用実態調査  
【血液製剤平均的使用量調査票】

平成16年度(平成16年4月1日から平成17年3月31日)に使用した血液製剤の使用量等について、下記により、御記入下さい。

1. A表で貴医療機関の病院機能分類パターンを選択し、(1)～(5)で該当する分類(ア～ウ)に、○を付けて下さい。

A表 病院機能別分類(平成16年度実績)

病院機能(略称)	分類		
	ア. 小:20-199床	イ. 中:200-499床	ウ. 大:500床以上
(1) 一般病床規模(病床)	ア. なし	イ. 少:2.00件未満/年・病床当り	ウ. 多:2.00件以上/年・病床当り
(2) 全麻手術件数(全麻)	ア. なし	イ. 有	
(3) 心臓手術(心臓)	ア. なし	イ. 有	
(4) 造血幹細胞移植(造血)	ア. なし	イ. 有	
(5) 血漿交換(血漿)	ア. なし	イ. 有	

注・病床規模は、使用病床数(平成16年度末)で選択して下さい。  
・全麻手術件数の分類は1床当りの件数です。

2. B表に各製剤の1床当たりの使用量(平成16年度実績)を記載するとともに、当該使用量と、参考4の厚生労働省通知(「血液製剤の平均的使用量について」)の表Ⅰ又は表Ⅱにおいて該当する病院機能分類パターンの標準的使用量(50%値及び90%値)と比較して、該当するもの((1)～(3))に○を付けて下さい。

B表 1床当たりの使用量<平成16年度の年間使用量(血液製剤適正使用実態調査票問4の数値)÷使用病床数(血液製剤適正使用実態調査問1の数値)>

製剤名	使用量	標準的使用量との比較
MAP	単位	(1) 50%値以下 (2) 50%値超～90%以下 (3) 90%値超
FFP	単位	(1) 50%値以下 (2) 50%値超～90%以下 (3) 90%値超
PC	単位	(1) 50%値以下 (2) 50%値超～90%以下 (3) 90%値超
アルブミン	g	(1) 50%値以下 (2) 50%値超～90%以下 (3) 90%値超
グロブリン	g	(1) 50%値以下 (2) 50%値超～90%以下 (3) 90%値超

MAP:赤血球濃厚液(MAP) FFP:新鮮凍結血漿 PC:血小板濃厚液 アルブミン:アルブミン製剤 グロブリン:免疫グロブリン製剤

3. 上記2において、各製剤の使用量のいずれか1つが「90%値を超過する場合」には、当該製剤の使用量の多い原因について、貴医療機関での検討状況について、御回答下さい。(該当するものに○を付けて下さい。)

(1) 検討の有無 ア. あり イ. なし

(2) 上記で「あり」と回答された場合、

① 検討はどの組織で実施されましたか。

ア. 輸血部(室)又は検査部(室)    イ. 薬剤部    ウ. 輸血療法委員会等    エ. その他(                      )

② 検討内容について、以下に記載して下さい。

総務省承認 No. 26397  
承認期限 平成18年 3月31日まで

## 血液製剤使用実態調査 【病態別・術式別血液製剤使用量調査票】

○病床数200床以上(平成17年9月末許可病床数)の医療機関にお尋ねします。

下記の病態別・術式別の症例について、平成18年2月1日から遡って直近の連続した20例(最大、平成17年1月1日まで遡って下さい。)について御回答下さい。

(1)貴医療機関において、下記疾患について、外科手術等を実施した症例(患者は20歳以上、但し、「10 急性白血病」は、一部小児を含む)について、各症例毎に、平成18年2月1日から平成17年1月1日まで遡って、直近の連続した20例の実績を別紙の調査票(別添2-1～別添2-10③)に記入して下さい。

\*血液製剤の投与の有無は問いません。

\*10①～③については、各々20例を御回答下さい。

(2)調査表の各項目について、記入又は該当する箇所に○を付けて下さい。

\*自己血輸血法:貯血式(手術前に自己の血液を予め採血、保存する方法)、希釈式(手術開始前に採血し、人工膠質液を輸注する方法)、回収式(術中・術後に出血した血液を回収する方法)

(3)調査票の標題(疾患名)横の該当欄に以下の事項も記載して下さい。

① 対象疾患の症例実績(平成17年1月1日から平成17年12月31日の年間実績)

② 効率的血液準備法として、活用した方法(T&S法、MSBOS、SBOE、該当無し)で該当するものに○を付けて下さい。

\*効率的血液準備方法:T&S法(血液型不規則抗体スクリーニング法)、MSBOS(最大手術血液準備量)、SBOE(手術血液準備量計算法)

(4)調査票の左欄(患者番号欄)に、貴医療機関で使用されている患者さんのI. D. 番号を記入して下さい。(調査後に、内容を確認して頂くことがあるため)

- |   |                     |  |                |
|---|---------------------|--|----------------|
| 1 胃癌(全摘手術例のみ)   | 2 肝細胞癌(亜区域切除例以上)    | 3 心臓病(人工心肺使用例のみ)                         | 4 直腸癌(前方切除例のみ) |
| 5 胸部食道癌(内視鏡術は除く)  | 6 脳腫瘍(神経膠腫又は髄膜腫に限る) | 7 脳血管疾患(くも膜下出血又は脳内出血に限る。但し脳血管クリッピングは除く。) |                |
| 8 子宮癌(広汎子宮全摘術のみ)  | 9 分娩時異常出血           |  |                |
| 10① 急性骨髄性白血病(16歳以上かつ化学療法のみ。) 10② 急性リンパ性白血病(15歳以下かつ化学療法のみ。) 10③急性白血病(同種造血幹細胞移植例) |                     |  |                |

1 胃癌(全摘手術例のみ) ( 症例/年) 効率的血液準備法 注1(T&S法、MSBOS、SBOE、該当無し)

注1: 該当するものに○を付けて下さい。

注2: 「投与直前」とは、術前1日以内

使用薬剤 投与量 患者番号 (I. D. 番号)	年 齢	性 別	身 長	体 重	リンパ節 郭清	stage (分類法)	主な合併症	血液製剤の 投与の有無	出血量 ml	赤血球濃厚液(MAP)		新鮮凍結血漿		血小板濃厚液		アルブミン製剤 (加算人血漿蛋白+人血漿7M%注2)		自己血 (貯血式又は 希釈式) *回収式を除く	備 考 注3: 記録があれば 記入して下さい
										総使用量 (単位)	投与直前 検査値	総使用量 (単位)	投与直前 検査値	総使用量 (単位)	投与直前 検査値	総使用量 (g)	投与直前 検査値		
1 患者番号 ( )		①男 ②女	cm	kg	①D <sub>0</sub> ②D <sub>1</sub> ③D <sub>2</sub> ④D <sub>3</sub> 以上	( )	( )	①有 (自己血輸血の 併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR ) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 血小板数 ( ) うち術中 ( )	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 ( )単位 赤血球濃厚液 ( )単位 新鮮凍結血漿 ( )単位 血小板濃厚液 ( )単位 アルブミン製剤 ( )g
2 患者番号 ( )		①男 ②女	cm	kg	①D <sub>0</sub> ②D <sub>1</sub> ③D <sub>2</sub> ④D <sub>3</sub> 以上	( )	( )	①有 (自己血輸血の 併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR ) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 血小板数 ( ) うち術中 ( )	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 ( )単位 赤血球濃厚液 ( )単位 新鮮凍結血漿 ( )単位 血小板濃厚液 ( )単位 アルブミン製剤 ( )g
3 患者番号 ( )		①男 ②女	cm	kg	①D <sub>0</sub> ②D <sub>1</sub> ③D <sub>2</sub> ④D <sub>3</sub> 以上	( )	( )	①有 (自己血輸血の 併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR ) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 血小板数 ( ) うち術中 ( )	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 ( )単位 赤血球濃厚液 ( )単位 新鮮凍結血漿 ( )単位 血小板濃厚液 ( )単位 アルブミン製剤 ( )g
4 患者番号 ( )		①男 ②女	cm	kg	①D <sub>0</sub> ②D <sub>1</sub> ③D <sub>2</sub> ④D <sub>3</sub> 以上	( )	( )	①有 (自己血輸血の 併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR ) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 血小板数 ( ) うち術中 ( )	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 ( )単位 赤血球濃厚液 ( )単位 新鮮凍結血漿 ( )単位 血小板濃厚液 ( )単位 アルブミン製剤 ( )g
5 患者番号 ( )		①男 ②女	cm	kg	①D <sub>0</sub> ②D <sub>1</sub> ③D <sub>2</sub> ④D <sub>3</sub> 以上	( )	( )	①有 (自己血輸血の 併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR ) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 血小板数 ( ) うち術中 ( )	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 ( )単位 赤血球濃厚液 ( )単位 新鮮凍結血漿 ( )単位 血小板濃厚液 ( )単位 アルブミン製剤 ( )g
6 患者番号 ( )		①男 ②女	cm	kg	①D <sub>0</sub> ②D <sub>1</sub> ③D <sub>2</sub> ④D <sub>3</sub> 以上	( )	( )	①有 (自己血輸血の 併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR ) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 血小板数 ( ) うち術中 ( )	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 ( )単位 赤血球濃厚液 ( )単位 新鮮凍結血漿 ( )単位 血小板濃厚液 ( )単位 アルブミン製剤 ( )g
7 患者番号 ( )		①男 ②女	cm	kg	①D <sub>0</sub> ②D <sub>1</sub> ③D <sub>2</sub> ④D <sub>3</sub> 以上	( )	( )	①有 (自己血輸血の 併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR ) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 血小板数 ( ) うち術中 ( )	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 ( )単位 赤血球濃厚液 ( )単位 新鮮凍結血漿 ( )単位 血小板濃厚液 ( )単位 アルブミン製剤 ( )g
8 患者番号 ( )		①男 ②女	cm	kg	①D <sub>0</sub> ②D <sub>1</sub> ③D <sub>2</sub> ④D <sub>3</sub> 以上	( )	( )	①有 (自己血輸血の 併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR ) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 血小板数 ( ) うち術中 ( )	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 ( )単位 赤血球濃厚液 ( )単位 新鮮凍結血漿 ( )単位 血小板濃厚液 ( )単位 アルブミン製剤 ( )g

2 肝細胞癌(亜区域切除例以上) ( 症例/年) 効率的血液準備法 注1(T&S法、MSBOS、SBOE、該当無し)

注1:該当するものに○を付けて下さい。

注2:「投与直前」とは、術前1日以内

使用薬剤 投与量 患者番号 (I. D. 番号)	年 齢	性 別	身 長	体 重	切 除 範 囲	stage (分類法)	主な合併症	血液製剤の 投与の有無	出血量 ml	赤血球濃厚液(MAP)		新鮮凍結血漿		血小板濃厚液		アルブミン製剤 ( <small>※加算人血漿蛋白+人血清アルブミン</small> )		自己血 (貯血式又は 希釈式) *回収式を除く	備 考 注3:記録があれば 記入して下さい
										総使用量 (単位)	投与直前 検査値	総使用量 (単位)	投与直前 検査値	総使用量 (単位)	投与直前 検査値 (万/μL)	総使用量 (g)	投与直前 検査値 (g/dL)		
1 患者番号 ( )		①男 ②女	cm	kg	①Hrs ②Hr1 ③Hr2以上	( )	肝硬変(有・無) *有の場合 臨床病期(I. II. III) その他 ( )	①有 (自己血輸血の 併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	血小板数 ( ) うち術中 ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 赤血球濃厚液( )単位 新鮮凍結血漿( )単位 血小板濃厚液( )単位 アルブミン製剤( )g
2 患者番号 ( )		①男 ②女	cm	kg	①Hrs ②Hr1 ③Hr2以上	( )	肝硬変(有・無) *有の場合 臨床病期(I. II. III) その他 ( )	①有 (自己血輸血の 併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	血小板数 ( ) うち術中 ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 赤血球濃厚液( )単位 新鮮凍結血漿( )単位 血小板濃厚液( )単位 アルブミン製剤( )g
3 患者番号 ( )		①男 ②女	cm	kg	①Hrs ②Hr1 ③Hr2以上	( )	肝硬変(有・無) *有の場合 臨床病期(I. II. III) その他 ( )	①有 (自己血輸血の 併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	血小板数 ( ) うち術中 ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 赤血球濃厚液( )単位 新鮮凍結血漿( )単位 血小板濃厚液( )単位 アルブミン製剤( )g
4 患者番号 ( )		①男 ②女	cm	kg	①Hrs ②Hr1 ③Hr2以上	( )	肝硬変(有・無) *有の場合 臨床病期(I. II. III) その他 ( )	①有 (自己血輸血の 併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	血小板数 ( ) うち術中 ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 赤血球濃厚液( )単位 新鮮凍結血漿( )単位 血小板濃厚液( )単位 アルブミン製剤( )g
5 患者番号 ( )		①男 ②女	cm	kg	①Hrs ②Hr1 ③Hr2以上	( )	肝硬変(有・無) *有の場合 臨床病期(I. II. III) その他 ( )	①有 (自己血輸血の 併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	血小板数 ( ) うち術中 ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 赤血球濃厚液( )単位 新鮮凍結血漿( )単位 血小板濃厚液( )単位 アルブミン製剤( )g
6 患者番号 ( )		①男 ②女	cm	kg	①Hrs ②Hr1 ③Hr2以上	( )	肝硬変(有・無) *有の場合 臨床病期(I. II. III) その他 ( )	①有 (自己血輸血の 併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	血小板数 ( ) うち術中 ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 赤血球濃厚液( )単位 新鮮凍結血漿( )単位 血小板濃厚液( )単位 アルブミン製剤( )g
7 患者番号 ( )		①男 ②女	cm	kg	①Hrs ②Hr1 ③Hr2以上	( )	肝硬変(有・無) *有の場合 臨床病期(I. II. III) その他 ( )	①有 (自己血輸血の 併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	血小板数 ( ) うち術中 ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 赤血球濃厚液( )単位 新鮮凍結血漿( )単位 血小板濃厚液( )単位 アルブミン製剤( )g
8 患者番号 ( )		①男 ②女	cm	kg	①Hrs ②Hr1 ③Hr2以上	( )	肝硬変(有・無) *有の場合 臨床病期(I. II. III) その他 ( )	①有 (自己血輸血の 併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	血小板数 ( ) うち術中 ( )	総使用量 ( ) うち術中 ( )	アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 赤血球濃厚液( )単位 新鮮凍結血漿( )単位 血小板濃厚液( )単位 アルブミン製剤( )g

3 心臓病(人工心肺使用例のみ) ( 症例/年) 効率的血液準備法 注1(T&S法、MSBOS、SBOE、該当無し)

注1:該当するものに○を付けて下さい。

注2:「投与直前」とは、術前1日以内

使用薬剤 投与量 患者番号 (I. D. 番号)	年 齢	性 別	身 長	体 重	術 式	主な合併症	血液製剤の 投与の有無	出血量 ml	赤血球濃厚液(MAP)		新鮮凍結血漿		血小板濃厚液		アルブミン製剤 (加熱人血漿蛋白+人血漿70%)		自己血 (貯血式又は 希釈式) *回収式を除く	備 考 注3:記録があれば 記入して下さい
									総使用量 (単位)	投与直前 検査値	総使用量 (単位)	投与直前 検査値	総使用量 (単位)	投与直前 検査値	総使用量 (g)	投与直前 検査値		
1 患者番号 ( )		① 男 ② 女	cm	kg	①大動脈解離に対する血管置換術 ②弁置換術 ③冠動脈バイパス術	無・有	①有 (自己血輸血の併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	無・有 血小板数 ( ) うち術中 ( )	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 赤血球濃厚液( )単位 新鮮凍結血漿( )単位 血小板濃厚液( )単位 アルブミン製剤( )g	
2 患者番号 ( )		① 男 ② 女	cm	kg	①大動脈解離に対する血管置換術 ②弁置換術 ③冠動脈バイパス術	無・有	①有 (自己血輸血の併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	無・有 血小板数 ( ) うち術中 ( )	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 赤血球濃厚液( )単位 新鮮凍結血漿( )単位 血小板濃厚液( )単位 アルブミン製剤( )g	
3 患者番号 ( )		① 男 ② 女	cm	kg	①大動脈解離に対する血管置換術 ②弁置換術 ③冠動脈バイパス術	無・有	①有 (自己血輸血の併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	無・有 血小板数 ( ) うち術中 ( )	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 赤血球濃厚液( )単位 新鮮凍結血漿( )単位 血小板濃厚液( )単位 アルブミン製剤( )g	
4 患者番号 ( )		① 男 ② 女	cm	kg	①大動脈解離に対する血管置換術 ②弁置換術 ③冠動脈バイパス術	無・有	①有 (自己血輸血の併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	無・有 血小板数 ( ) うち術中 ( )	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 赤血球濃厚液( )単位 新鮮凍結血漿( )単位 血小板濃厚液( )単位 アルブミン製剤( )g	
5 患者番号 ( )		① 男 ② 女	cm	kg	①大動脈解離に対する血管置換術 ②弁置換術 ③冠動脈バイパス術	無・有	①有 (自己血輸血の併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	無・有 血小板数 ( ) うち術中 ( )	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 赤血球濃厚液( )単位 新鮮凍結血漿( )単位 血小板濃厚液( )単位 アルブミン製剤( )g	
6 患者番号 ( )		① 男 ② 女	cm	kg	①大動脈解離に対する血管置換術 ②弁置換術 ③冠動脈バイパス術	無・有	①有 (自己血輸血の併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	無・有 血小板数 ( ) うち術中 ( )	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 赤血球濃厚液( )単位 新鮮凍結血漿( )単位 血小板濃厚液( )単位 アルブミン製剤( )g	
7 患者番号 ( )		① 男 ② 女	cm	kg	①大動脈解離に対する血管置換術 ②弁置換術 ③冠動脈バイパス術	無・有	①有 (自己血輸血の併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	出血量 ml	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 Hb値 ( g/dL) Ht値 ( %)	総使用量 ( ) うち術中 ( )	無・有 PT値 (INR) ( %) APTT値 ( %) ( 倍) フィブリノゲン値 ( mg/dL)	無・有 血小板数 ( ) うち術中 ( )	無・有 総使用量 ( ) うち術中 ( )	アルブミン濃度 ( ) うち術中 ( )	採血量 注3 ml 使用量 ml	*血液準備量 赤血球濃厚液( )単位 新鮮凍結血漿( )単位 血小板濃厚液( )単位 アルブミン製剤( )g	